

緊急情報：用水は限りある資源です！

漏水は周りの方の用水も不足しもポンプアップの場合は電気代もかかります。

JA佐渡 営農振興課

昨年の干ばつで田んぼの**内部に亀裂**が入ったり、元旦の地震で用水パイプの接続部が壊れたりした結果、**漏水し田んぼの「水」が貯まらない事例が多発**しています。

特に注意が必要な田んぼは以下の通りです。

- 昨年 WCS(ホールクropp稲)を栽培し、早期に落水した田んぼ
- 昨年中干しがキツメとなり、溝切の「溝」から亀裂が広がり、水持ちが悪化した田んぼ
- 昨年8月中旬以降、いくら入水しても水尻まで水が届かなかった田んぼ
- 畦畔や水尻側から「水がしみ出し」ていたり、「排水パイプ周囲」から水が噴き出している田んぼ
- 代掻き後、一部に穴が開き、そこから水が抜けている田んぼ
- モグラ穴やネズミ穴が多い、あるいはザリガニが多い田んぼ



今一度、耳を澄まして田んぼ周囲を歩き、水漏れの音や目視で漏水箇所を確認して下さい。

⇒ 放置すると、**ヒビが広がり**、畔が抜けたり、**斜面が崩壊**したりします。

除草剤が適正に効くには、減水深 2cm/日未満(1日に2cm水深が下がる)でなければなりません。**漏水田は除草剤の処理層が形成できず、雑草が多発します。**



代かき後、田面一部に3~5cm位の穴が開き、水が集まってきている



排水側斜面、耳を澄ますとチョロチョロ音が聞こえ、草をよけると水が噴き出している



モグラ穴

対策は JA 佐渡広報誌令和6年3月 Vol.369号4ページを参考にして下さい。

入水が遅れ、苗が**老化している場合は「弁当肥」**で苗を持たせ、草丈が20cmを超える伸び過ぎた苗は葉っぱを切って植えてください。栽植密度を増やし**茎数確保に努めてください**。予定より田植えが遅れ、代掻きから時間が経過すると雑草の葉数が進み除草剤が効かなくなります、葉数を確認して除草剤を選んで下さい。

